

# 中国でズグロカモメ調査実施

## ヒナに緑色フラッグ装着

6月20〜25日にかけて、環境研究室の研究員らが環境省の委託を受けて、ズグロカモメの繁殖地、中国の黄河河口で標識調査などを実施した。ズグロカモメは生鳥数が約8千羽といわれ、地産が危惧されている。これまで北九州市を中心に行ってきた遼東省盤鏡双台河口での標識調査では、越冬期に九州北部や四国への移動が確認されているが、黄河河口での調査は今回が初めて、今後、越冬地での観察を通して、黄河河口で繁殖する個体群の渡りルートを解明する。

調査を行ったのは山東省の黄河と番号が入った緑色フラッグを付けた。冬季に保護区の研究員など側の調査団は尾崎清明標識研究室を日本へ招き、九州地方の越冬地で観察調査を共同で行う予定。また、山階鳥研の調査と同時期にズグロカモメの繁殖地として知られる双台河口や江蘇省塩城でも、北九州市や中国の研究者により再び調査した。

保護区は面積が約15万ヘクタールもの広大なところで、周辺地域も含め4カ所を選んで調査した結果、2・1・3羽の生息を確認した。うち1カ所では繁殖が確認され、ヒナ14羽に中国政府指定の金属足環



双台河口からの移動経路は北九州市が実施した調査  
●は繁殖地、■は越冬地

▶ 黄河河口で緑色フラッグと金属足環を装着したズグロカモメのヒナ=2001年6月22日

ラッグを装着する調査が行われた、双台河口では赤色、塩城では青色のフラッグが付けられ、希少なズ

グロカモメの渡り解明に向けて、広く観察情報の提供を呼びかけていく。